

千里山会第十九回総会の概況

早朝に雨が降ったようで、足元が濡れた日比谷公園の奥、ここ数年、恒例の日本プレスセンター内・レストラン・アラスカで、十月十七日（土）に第十九回千里山会総会が開かれました。

このところ毎回、数名の初参加者を迎えられ、今回も5名の方が、新に出席して下さいました。そして、これまたいつもと変わらず、大勢遠来から参加していただきました。

今回は5年ごとの追悼式を行う年であり、2009年以降に亡くなられた会員17名の方々を偲ぶ会でもあり、14回生柿崎眞吾様の司会で行われました。

また、一昨年の4月、2回生の木村久夫先輩の新たな遺書が見つかったことで、東京新聞で特集を組まれた同社文化部長 加古陽治様をお招きし、「真実のわだつみ」の講演をお願いし、実現しました。

総会次第

| | | |
|--------|---------------------------------|--------|
| 司会 | 事務局長 | 奥田 陽一 |
| 開会宣言 | | 奥田 陽一 |
| 物故者追悼式 | 司会 | 柿崎 眞吾 |
| 開会の辞 | 世話人代表 | 片山 章 |
| 特別講演 | 東京新聞・文化部長 | 加古 陽治様 |
| | 木村久夫と「真実のわだつみ」 | |
| 事務局報告 | 事務局長 | 奥田 陽一 |
| | 会計報告、会計監査報告、配布資料説明、アンケート記入のお願い他 | |

総会閉会 (休憩 十分)

今回 追悼者 御芳名簿

| | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 回生 | 辰巳 昂様 | 2 | 0 | 1 | 0 | ・ | 0 | 1 | ・ | 1 | 8 |
| 9 | 回生 | 宇野 隆造様 | 2 | 0 | 1 | 0 | ・ | 0 | 8 | ・ | 1 | 0 |
| 13 | 回生 | 弘末 新一様 | 2 | 0 | 1 | 1 | ・ | 0 | 2 | ・ | 2 | 3 |
| 19 | 回生 | 芝(山東) 麗子様 | 2 | 0 | 1 | 1 | ・ | 0 | 7 | ・ | 2 | 9 |
| 8 | 回生 | 武蔵 宏様 | 2 | 0 | 1 | 1 | ・ | 0 | 9 | ・ | 0 | 7 |
| 6 | 回生 | 中田(飯島) 信子様 | 2 | 0 | 1 | 2 | ・ | 0 | 1 | ・ | 2 | 9 |
| 28 | 回生 | 岡林(立木) 祐子様 | 2 | 0 | 1 | 2 | ・ | 0 | 3 | ・ | 2 | 4 |
| 8 | 回生 | 宍戸(伊藤) 清子様 | 2 | 0 | 1 | 2 | ・ | 0 | 7 | ・ | 1 | 8 |
| 13 | 回生 | 清水 達夫様 | 2 | 0 | 1 | 2 | ・ | 1 | 2 | ・ | 1 | 1 |
| 14 | 回生 | 田中(宇野) 博様 | 2 | 0 | 1 | 2 | ・ | 1 | 2 | ・ | 2 | 3 |
| 14 | 回生 | 竹内(宮中) 市子様 | 2 | 0 | 1 | 3 | ・ | 0 | 1 | ・ | 2 | 2 |
| 21 | 回生 | 芦田 和雄様 | 2 | 0 | 1 | 3 | ・ | 0 | 5 | ・ | 1 | 8 |
| 4 | 回生 | 角田(安倍) 智慧子様 | 2 | 0 | 1 | 3 | ・ | 0 | 7 | ・ | 0 | 1 |
| 17 | 回生 | 山本 勝彌様 | 2 | 0 | 1 | 3 | ・ | 0 | 8 | ・ | 2 | 4 |
| 24 | 回生 | 河井 康郎様 | 2 | 0 | 1 | 3 | ・ | 1 | 2 | ・ | 0 | 9 |
| 10 | 回生 | 徳田 迪夫様 | 2 | 0 | 1 | 4 | ・ | 0 | 2 | ・ | 0 | 7 |
| 12 | 回生 | 石川 忠志様 | 2 | 0 | 1 | 5 | ・ | 0 | 7 | ・ | 1 | 2 |

() は千二小在学時の姓

世話人代表 開会の辞 (要訳)

18回生 片山 章

平成6年、実に23年振りに千二小卒業生の有志が集まり、その後の発展を打ち合わせた。そしてその後も続けることを申し合わせ、この千里山会が始まった。ただ、その時には名前もなく、募集することになった。その結果、伏見さん提案の「千里山会」を同9年より採用。同10年、「千里山会誌」創刊号を発行した。以来、同27年、第18号と途切れることなく続いている。その第2号では、9回生、藤田田さん(日本マクドナルド創始者)の小学校校舎に関する文章や、第18号では「千里山」の地名に着いて15回生 伊藤發子さんの力作が載っており、元禄時代、否、嵯峨天皇時代(786年〜842年)に遡ること。

さて今後のこの会の展開は、9回生 飯島泰蔵さんの「千里山会・会誌・創刊号の巻頭言の主旨に則り、出来るだけ長く続けたい。それには皆さんのご協力と創意・工夫が欠かせない。

特別講演 「真実のわだつみ」 (要約)

2回生 木村久夫先輩に別の遺書

東京新聞社文化部長 加古 陽治

これは千里山会総会時、加古様に特別講演をお願いしたものです。ご講演時に書き留めたもので、足りないところ、聞き間違いもあるうかと思えます。その点は何とぞお含みおきください。

早稲田大学構内に

「往く人のゆき果てし校庭(にわ)に音絶えて

木の葉舞うなり黄にかがやきて」

と書かれた碑があり、堂園満枝が学徒出陣していく学生の霊を祭ったものです。

「きけわだつみのこえ 日本戦没学生の手記」は、戦後、各地の戦没学徒の遺稿を集め、東大協同組合から、「きけわだつみのこえ」として出版されました。

この歌は「きけわだつみのこえ」を初めとして、登場する書物によって、微妙に表記が違っていたのです。例えば、

「明日と」言ふ」が「いう」になっていたり、「(去りし)もの」は「物」と漢字で書かれていたりしたのです。

元々、木村氏の遺書は上官から頂いた「哲学通論」の本の余白に書き綴られたものと思われていました。ところが、先の短歌の違いや、「哲学通論」に書かれた遺書が中途半端な終わり方をしている さらに、「わだ

つみ」と一致しない記述もあり、別に遺書が存在するのではないかと考え、ご遺族に問い合わせ、妹さんに探してもらっていました。最初はないとの返事でしたが、そのうち、金庫の裏から出てきた。とのことでした。お父さんの久さん宛のものでした。

ここで木村久夫氏の歴史を辿ってみます。

千二小卒業後、府立豊田中学へ。英語が得意となり、日本語のあまり出来ない外人教師とは英語ばかりで話をしていたそうです。と同時に短歌にも目覚めました。旧制高校は金沢第四高等学校を目指すが、寒く雪が多いことから、旧制高知高等学校に志望を変更。

潔癖過ぎるほど好き嫌いの激しい性格から、軍国主義や権威主義、頭ごなし・威張る先生が大嫌いで、特にドイツ語の教授は徹底して嫌いました。

お陰で2年、留年する羽目になりました。

その間、読書に明け暮れ、後日、母校高知大学に435冊の蔵書が寄贈されましたが、その全てに木村氏の書き込みが残っているそうです。

高校卒業後、京都大学に進み、将来、社会科学の学者を、目指すか父久氏が望む外交官かと悩み、高校時代

の恩師塩尻先生に手紙で相談もされていました。しかし、赤紙が届き、結局、インド洋アンダマン海のニコバル諸島の一つカーニコバル島に送られました。

ここでは海軍主導の民政部に配属となり、元々英国領だった現地の住民らへの宣撫活動、折衝に当たりました。英語を話すインド系、インドネシア系住民だけでなく、現地語を覚え原住民とも親しくなっていたようです。差別意識は全くなく、皆が島民のことを「土人」と言っていたが、彼のみは「原住民」を使用。愛情すら感じていたようです。しかし戦局は悪化し、英国艦隊に包囲され、沖合から、艦砲射撃も加わり、激戦。そのような折に住民に英国へのスパイ容疑事件が起り、信号弾打ち上げ等の取り調べの任に当たられました。この時の取り調べ及びその結果としての原住民の処罰が、敗戦後の軍事法廷で今度は逆に処罰を受ける対象になりました。

日本軍上層部の処罰を軽くするための隠蔽工作の結果、一兵卒の木村氏が処刑され、参謀等は逃げ切るという誠に卑劣な手段がとられました。そのことを激

しく糾弾する内容はお父さんや塩尻先生が、「きけわだつみのこえ」に載せるにあたり、軍人特に陸軍の軍人を激しく非難する部分を削除されたようです。当時それでも軍部を擁護する人が多かったのでしょうか。

最後には「この頃になってようやく死と言うことが大して恐ろしいものではなくなってきた」と。

拝見したスライドの最後に「絶対国防圏」の地図がありました。カーニコバル島はインド洋に浮かぶ最西端です。制海権・制空権を失って補給の途すらなく、名ばかりの「絶対国防圏」置き去りにされ玉砕を選んだ、すべての日本軍兵士を思うと木村氏の糾弾は当然だと思います。

ご講演を伺い20回生浅野倉平さんが同期の方々とスライドにあった木村家の墓を訪れましたが柵に囲まれていて、墓前にお参りすることは叶わなかったそうです。(完)

経過報告

- 15.07.28 会誌18号最終校正 於学士会館 27萩原 24奥田
- 15.08.05 会誌18号発送開始
- 15.08.05 会誌18号を千里山・佐井寺図書館、国立国会図書館に納本
- 15.09.06 常任幹事会 総会準備会 於八重洲倶楽部
17高橋、18片山、寺澤、小木曾、21大森、平田、23佐怒賀、
26児玉、27萩原、29芦田、32古川、39増田、24奥田
以上13名
- 15.10.14 アラスカとの打合せ、加古陽治様挨拶 18片山、24奥田
- 15.10.17 2015年度 総会・懇親会 (詳細 会誌19号)
- 15.10.21 2015年度中間決算作成 関係者に郵送、チェックお願い
18片山章、寺澤美代子、21平田坦 26児玉絢子、27萩原直大、
24奥田陽一
- 15.11.29 常任幹事会 総会反省会 於八重洲倶楽部
18片山、小木曾、寺澤、21平田、24奥田、26児玉、
27高見、萩原、32古川 以上9名
- 16.03.31 会計15年度決算書類作成・チェック 21平田坦 26児玉絢子
24奥田陽一
- 16.06.04 会誌19号編集打合せ 於学士会館 27萩原 24奥田
- 16.06.11 ちさと会 18片山世話人会代表挨拶
- 16.07.06 会誌19号編集打合せ 於学士会館 27萩原 24奥田
- 16.07.12 会誌発送用封筒準備 32古川 24奥田
- 16.07.19 会誌19号編集打合せ、版下をよしみ工産へ
於学士会館 27萩原 24奥田

千里山会2015年総会・懇親会 出席者名簿

2015.10.17

レストランアラスカ 日本プレスセンター店
(回生別・五十音順)

来賓 加古陽治様

- 11回生 伏見千瑞子、三谷(平井)万里子
- 14回生 柿崎眞吾、三分一克美、吉田静男(初)*(尼崎)
- 15回生 山本平八郎*(千里山)
- 16回生 松村信男*(ハワイ)
- 17回生 高橋一三、宮中 博、山本(吉田)恵子
- 18回生 片山 章、山崎不二雄、小木曾(名田)文子、栗木(池田)明子、寺澤(劉)美代子
- 20回生 浅野倉平*(千里山)、長谷川宏有、和田 忠博*(神戸)、井出(藤川) 敏*(大阪狭山)、
樺山(三笠) 翠*(千里山)
- 21回生 大森 信、平田 坦、大久保千尋
- 23回生 辛嶋保馬、金尾(尾崎)恵子*(広島)、佐怒賀(片山)弘子
- 24回生 奥田陽一、加藤 孝*(仙台)
- 25回生 永井 誠、中村孝士、牧村(山崎)佳那子
- 26回生 奥田(渡部)英子、児玉(服部)絢子
- 27回生 高見信雄、西田悠紀夫*(千里山)、萩原直大、林 裕三*(伊勢)、城戸(吉田)三千代、
戸島(大石)松子
- 28回生 池島^{まさみ}正真(初)
- 29回生 岩瀬拓郎
- 32回生 赤井恭平、小林義一(初)、山田 明、古川(藤本)道子
- 35回生 藤本淑子
- 39回生 澤田 純、増田泰邦*(宇都宮)
- 42回生 山崎^{やすよ}養世(初)
- 千三三3回生(75回生)毛阪^{もまき} 愛(初)

以上51名

*:遠来者 12名

(初):初参加者 5名

【2015年度 千里山会収支表】

15年4月1日～16年03月31日

2016年03月31日

| 収入 | 金額 | 支出 | 金額 |
|--------------------|-----------|----------|-----------|
| 前年度繰越 | 883,520 | | |
| 年会費 159名 | 318,000 | 通信費 | 71,028 |
| 内訳 13年 1名 | 2,000 | 振込手数料 | 756 |
| 14年 3名 | 6,000 | 文具・コピー費 | 46,396 |
| 15年 154名 | 308,000 | 打合経費 | 30,840 |
| 16年 1名 | 2,000 | 慶弔費他 | |
| 振込手数料(会費振込分) | -12,520 | 会誌18号作成費 | 183,708 |
| その他(雑収入) | 2,000 | 会員名簿作成費 | |
| 利息 | 132 | | |
| 小計 | 307,612 | 小計 | 332,728 |
| 懇親会費 50名 @8,000 | 395,000 | 会食費他 | 484,126 |
| | | 写真費 | |
| | | 合唱隊他諸経費 | 27,140 |
| | | 記念品費 | |
| | | 小計 | 511,266 |
| 寄付金 8名 | 58,000 | | |
| | | 繰越 | 800,138 |
| 合計 | 1,644,132 | 合計 | 1,644,132 |

参考 基金総額：617,000円(1996年募集)
寄付累計：1,594,042円(1996/4～2016/03 延201名、含切手寄付)

本日、千里山会の会計監査をした結果、処理は適正且つ正確であるものと認めます。

2016年6月21日

監事 平田 坦